

# 【道央圏内での緑肥導入事例】

今回道央営業所から、道央圏での緑肥の導入が盛んな地区の取組状況と参考事例をご紹介しますと思います。

## ① 【JAいわみざわのグリーンベルトの経過について】

The image shows a 'Green Belt Promotion Manual' and a testimonial. The manual includes information about the '43km' goal, benefits of green belts, and implementation methods. The testimonial, titled '取り組んだ青年部員の意見' (Opinion of the participating young staff member), states: '私は、『農薬飛散の防止』に努めることを約束します!!' (I promise to strive for preventing pesticide drift!!).

### 資料① 平成23年度のJAいわみざわで配布している普及資料

JAいわみざわでは、平成19年度に青年部とともに立ち上げた『グリーンベルト』構想から、早くも5年が経過いたしました。そこで、今までの様な経過を辿ったのか、JAいわみざわ農業振興部へお聞き致しました。

グリーンベルトは播種距離で経過推移を確認しております。グリーンベルト構想2年目の平成20年度の利用総距離は、JAいわみざわ地域水田農業推進協議会にて「産地づくり交付金メニュー」として前年40円/メートルから60円/メートルに補填単価が上がったことから、参加戸数110戸、距離にして43キロメートルに達しました。平成21年度は参加戸数119戸約44キロメートルに延びましたが、平成22年度は天候が高温多湿であったことから、畑の作業が思うように出来ず、結果8キロメートルで終了したそうです。農業振興部の目標「フルマラソンの距離」は越えるようになって来ましたが、平成23年度は事業名を変えながら、継続し補助することで、もう1度平成21年度と同様の距離を目標になるよう推進しているとのことでした。

また、経過してゆく中で、以下の様な傾向変化があったそうです。

- (1). グリーンベルトの列数を最初2列で推奨していたが、今は1列30センチメートルで十分であることが分かり、手播きとテラーでの作業事例が多くなった。
- (2). 当初「ねまへらそう」「つちたろう」の1対1の混播を推奨していたが、現在「ねまへらそう」のみの使用が多くなった。
- (3). 土壌条件に合わせて、施肥は変えてゆく様になった。例えば、たまねぎ等の後作の場合、残肥の多い畑であれば無施肥にするが、やせた畑であれば、窒素で3 kg～5 kg/10<sup>7</sup>㎡の追肥をした方が、生育が良いとの報告もあった。



資料② かぼちゃとたまねぎのグリーンベルト

- (4). 取り組んで頂ける生産者分布を見ると、野菜を作付けしている畑の周りに採用している事例が多くみられた。

現在利用されている「ねまへらそう」「つちたろう」では、播種始めが5月下旬から6月中旬の気温が高くなった時点となり、「緑の壁」として効果が出るのは7月下旬からとなることから、今後への要望として5月上旬から6月上旬までに背丈が伸びて、春野菜などの作物をガードできる新たな「グリーンベルト」の草種、

品種の検討、導入が挙がっております。

今後、要望に答えることのできる品種の試験、提案、導入、普及に弊社としても、協力して行きたいと考えております。道内各地での普及のご参考になればと思います。

引き続き、この普及に多大なるご協力をいただきました、JAいわみざわ青年部、農業振興部及び空知農業改良普及センターの皆様には紙面をお借りして、お礼申し上げます。

## ② 【ひまわり デルソーレの使い方参考事例】

ひまわりの播種適期は通常5～6月上旬と7月下旬ですが、それまでに播種すると10月上旬までに開花し、ひまわり『デルソーレ』は草丈1.8メートル位で、綺麗な大輪の花を咲かせます。平成21年10月28日に、恵庭地区で当社販売品種「ひまわり デルソーレ」を見かけました(資料③)。生産者の方に聞いてみると9月1日に播種した畑であることがわかりましたが、この時点で、ひまわりの花は咲いていません。この後どうするのか?聞いてみますと、このまま開花しないことを利用し、11月上旬に鋤き込むと返答されました。

お話しをお聞きすると、①あくまでもひまわりの菌根菌を狙った場合では、開花は必要が無い。この状態

での鋤き込みはし易い②また種の野良生えがない③年内の作業は終盤なので、焦らず鋤き込み出来るとも話していました。また、近隣の生産者の方の中では、ひまわりが結実した場合、種子を狙った鳥や、アライグマなどの獣害を気にされる方もいるので、この遅蒔き播種方法はひまわりの有効活用として応用できるとも教えてくれました。景観を飾るヒマワリですが、本来の機能を生かした利用方法を意識し、栽培してみるのも新たな緑肥の活用方法と考えます。ご参考に頂ければ幸いです。



資料③ ひまわりデルソーレ未開花状態

(道央営業所 原子 恵一)